

# 産地戦略

実施期間 令和4～6年度

実施主体 岩手県  
都道府県 岩手県  
対象地域 岩手県中南部  
対象品目 トマト（施設栽培）



## 新たに取り入れる環境にやさしい

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

## 目指す姿

岩手県の施設栽培のトマトでは、病害虫の発生による収量や品質の低下を抑えるため、化学農薬の定期的な防除が実施されている。一方、アザミウマ類やコナジラミ類等の害虫は、薬剤抵抗性が発達しやすいため、化学農薬に替わる防除技術の導入が求められている。

化学農薬に替わる防除技術としては、物理的に害虫の侵入を阻害できる防虫ネットの他、近年、アザミウマ類やコナジラミ類に有効な天敵製剤「タバコカスミカメ」が農薬登録されたところ。

そこで、これらの技術を組み合わせ、化学農薬の使用量の低減と省力化が図られる防除体系の普及を目指す。

## 現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	定植												
技術名	殺虫剤(化学農薬)散布:13回以上											害虫防除	

## グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	定植												
技術名	防虫ネット設置		天敵放飼(1~2回)		殺虫剤(化学農薬)散布:7回								害虫防除

## グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	29	▶	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	0.14	▶ 1	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	0.14	▶ 1	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	0.14	▶ 1	

## 環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

### 〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬による害虫防除	防虫ネットの導入 天敵製剤の導入	化学農薬の使用回数の削減 農薬散布にかかる労力の削減

### 〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬（殺虫剤）の使用回数（回）	<b>13</b>	▶ <b>7</b>	

\* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

\* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

### グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

施設栽培トマトの生産者に対し、各地域の農業改良普及センターが、巡回指導等を通じて、栽培マニュアルの紹介を行うとともに、岩手県農業研究センターが技術的な助言を行い、グリーンな栽培体系の普及・定着を図る。

### 関係者の役割

関係者名	岩手県	農業改良普及センター	岩手県農業研究センター	JA・JA全農いわて
役割	全体調整・とりまとめ	技術指導	技術的な助言	技術指導・研修会等の開催